

作家・エッセイスト岡田光世さんの作品に「「地下鉄のマイウェイ」（ニューヨークのとけない魔法）」（文春文庫）という、大都会の人々の孤独と愛を描いた作品があるが、5月23日の夕刻、フランスの巡礼地、ルルドの街にマイウェイのサックスの音楽が流れた。何かこの作品のイメージと重なってくるのでした。街角で吹くサックス奏者、坪山健一さんだ。彼は関西フィルとも共演され、高山右近の列福式では作詞、作曲もされた人だ。以前、枚方にもおられ、今回は神奈川からコンサートのためにこられて、24日にはルルドから2キロのところの、正面に印象的な鐘が鳴るアンクラードの教会で「聖母マリアに捧げるミサ」があり、ミサの後に坪山健一さんの、「聖母マリアに捧げるコンサート」がありました。

シューベルトのアヴェマリアをはじめマイウェイなどの曲がきれいな教会の御聖堂に共鳴し、深みのある柔らかな美しいサックスの音色が心の底にしみわたりました。

この感動を神に感謝！

私は、5月22日から6月1日までフランスのルルドを始めとする巡礼に出かけました。2名の外人神父様、以前、奈良教区に長くおられ、今回、オーストラリアから来られた、グリーン神父様、カタルーニャ出身の名古屋教区のヤマシ神父様と2人のセンタースタッフの方、フランス国籍の通訳のガイドの方の案内で21人のグループでいってまいりました。未信者の方もおられました。ルルドでは、ファチマ、サンチャゴ巡礼団と合流し44名になります。

ルルドに、聖母マリア様のご出現されて、今年で160年になります。湧き出た泉で多くの方が、癒されて、今回の巡礼団の中にも癌がなおったとの2名の方がお礼にと参加されていました。23日、ルルド到着の日、ルルド修道院で日本語ミサの後、昼食をとり洞窟へ向かいました。ガブ川を越えるとロザリオ大聖堂が見え緑豊かな山や自然を背景にして、小鳥のさえずりが聞こえます。大聖堂の奥、洞窟の隣にたくさんの沐浴場があり、ベッドに寝かされた多くの病人の方や車いすの方もおられました。私は手を洗い口をゆすいでお水を飲み、足を洗うぐらいのつもりでいたのですが岩手の盛岡から来られている巡礼センターのスタッフのSさんの案内で、沐浴することになりました。40分ほど並んで6人ほどはいて、カーテンの向こうに深い水槽のある部屋で丸裸になり、腰巻をされ、お祈りしてから2人の男の人に両脇をかかえられザブンと浸かってわずかの間ですが沐浴させてもらいました。

ヨルダン川での主の洗礼を連想しました。

その後ロザリオ大聖堂で休憩しました。入り口には聖ドミニコが聖母からロザリオを授かるところが描かれています。御聖堂の中央、には聖母が大きく手を開かれて、来る人を招かれています。まわりにはロザリオの玄義が描かれています。お店でルルドのお水入れを買い求め、夕立の降る中、お水をいただきました。私の姉が8年前、亡くなる前に洗礼を受けたのですが、その折、お世話になった同じ教会のkさんが2年前からパーキンソン病で、口がきけなく、歩くことも困難になられており、その方のためにお水をいただいて帰りました。

今回の巡礼で、新しい靴を履いてきたのですが、長く歩くと、靴が足に食い込んで痛くなりました。またスマホのほかにデジカメでも写真を撮るため、つついみんなに遅れ、後のほうを歩くことになりました。今回の巡礼では、グリーン神父様や、コンゴのアンリ神父様、坪山健一さんが私の荷物の一つをもってくださいました。いずれの方も、力強く、心優しい皆さんです。感謝！感謝！

夜は、ロザリオ大聖堂前からローソクを灯して、世界各国の巡礼団とともに、ロザリオの祈りを唱え、アヴェマリアを歌いながら、盛岡のSさんと腕を組みながら、念願のローソク行列をしました。終わりに平和のあいさつを交わすのですが、突然若い2人の外国の娘さんから、右、左と頬に熱烈なキスを受け、うれしいかぎりですが、びっくりいたしました。

翌日24日は、ベルナデッタの生家や足跡を巡礼し、午後先に述べたアンクラードの教会へまいりました。25日は、ルルド洞窟前での、日本語ミサにあずかりました。

ここでごミサにあずかれるのはなんと幸せなことでしょう。

その後ルルドを後にしてバスでテゼへ向かう。

テゼ周辺のホテルでは、エスカルゴなどもいただきました。

26日テゼ共同体を訪問、案内をベルギーの若い学生ふうの女性がしてくれました。ここでは宗派をこえて、若者たちが集い、語りあい、分かち合い祈る。私が質問するとモットーは、喜び、シンプル、ミゼリコルディアである。と答えていただきました。

シリア難民も受け入れています。若者たちのつくる給食をいただき2500人の若者と一緒に

祈りました。

27日はディジョンへ、三位一体の聖エリザベトを訪ねて巡礼、聖ミカエル教会にて、主日のごミサにあずかりました。彼女はピアノの名手で、聴く人を深く感動させたとか、演奏した音楽堂などみてまわりました。

夕刻、ヌヴェール修道院に到着この日、礼拝堂に安置されている聖ベルナデッタに対面、その神々しいお姿に、その場をはなれられなくなりました。

夕食の後、お姿の前で、午後11時まで祈りを捧げました。

「天の聖ベルナデッタ我らのために祈り給え、アーメン！」。

28日は朝、修道院の御聖堂にてごミサの後、庭にあるベルナデッタが祈り、葬られていた並木が茂る聖ヨゼフ礼拝堂やベルナデッタが愛したマリア像、ルルドに模した洞窟など見学しました。その後バスにてリジューへ、途中昼食を、シャルトル大聖堂前でいただき、大聖堂を参拝しました。そしてカルメル会巡礼宿泊地ヘリジューで泊まる部屋には、幼きイエズスの聖テレジアの写真が掛けてあり、聖女の愛の強いまなざしを感じるものでした。

29日、宿泊地のお庭には美しいバラがたくさん咲いており、聖女の像がありました。終日、幼きイエズスの聖テレジアを訪ねて、アランソン村のマルタン一家の足跡などを巡礼しました。そして以前住まわれていた家を訪問した後、リジューのバジリカ大聖堂の地下聖堂で日本語ミサにあずかりました。私はこの日、使徒ペトロの手紙、1・10-16「あなた方は聖なる者となれ。わたしは聖なる者だからである」との第一朗読をさせていただきました。

その後カルメル会修道院を訪問いたしました。ほほ笑みのマリア様にもお会いできうれしいことでした。

30日は、パリ市内に入り、バスの中から、凱旋門やエッフェル塔を見ました。そしてモンマルトルの丘にあるバジリカ、サクレ・クール寺院を巡礼し、その後不思議のメダイ教会で日本語ミサがありました。奇跡のメダイをお土産に、たくさん買いました。

31日は、ノートルダム大聖堂で現地ミサにあずかり、最後の巡礼地となりました。いずれも素晴らしい教会での毎日の御ミサにあずかることが出来、大きなお恵みに感謝のかぎりです。

父のようなグリーン神父様、クラレチアン会のヤマス神父様と聖歌で貢献されたコーラス隊の皆さん、サクソ奏者の坪山健一さん、フィリピンの子どもたちをたすけておられる方々、ロザリオの祈りやいろいろとお世話いただいた巡礼センターのスタッフの方々、詳しくよくわかる説明や歩き方を教えていただいたガイドの方、貴重な動画や写真を分けていただいた方々、親切にいただいた皆さんに、厚く御礼申しあげます。皆様の上に益々の神様の祝福と恵みがありますようにお祈りして、フランス巡礼記を終わります。有難うございました。